

桜蔭俳話会 五月吟行句会 鑑賞と添

削

由来濃き丘の夏風水の道 ツル子

吟行句の長所と短所を併せ持つ句である。実景を見た者は同意するが、実景を知らない者には「由来濃き丘」の意味が判然としないであろう。

水道敷設の由来がはっきりしたというのであるから、表記上「由来」と「水の道」をあまり離して置くのは好ましくない。順序を入れ替えて、例えば、「水道（みづみち）の由来濃き丘夏の風」とすることができる。

キリン歩けば子等も移動す夏帽子

友子

情景はよく解るが、「……れば……す」の表現は俳句では原則として避けの方が良い。キリンと子らが一緒に動いたのであるから、例えば、「夏帽子らの同期やキリンの歩」とすることができる。

生きてゐる獣のにほひ風五月 守

野毛山動物園は無料開放されているにも拘らず、良く清掃管理された動物園である。飼養されている動物特有の匂いはほとんど感じない。いままで使わないで置いた「聖五月」の季語を使って見たくなった。

厚化粧は紫外線除け青蛙 友子

一読すると、芥川龍之介のペンキ塗り立ての句のパロディーのように見えるが、「厚化粧をせざるを得ないのは紫外線が強いからなのだ」と、厚化粧を肯定的に捉えている作者の視点に賛成する。作者が女性であると知って尚更である。

自分だけであれば、晴天の日にわざわざ動物園に来ることはないが、母親ともなれば、子供の喜ぶ顔には勝てない。こうも紫外線が強いと、青蛙も厚化粧に走るのかも知れないと、思わせるユ―モラスな句である。

枇杷の実をきれいに食べしはぐれ猿

明美

野生のはぐれ猿の実景。「きれいに食べし」との表現には、熟れて来て今日明日にでも獲ろうと思っていたのに、猿に先手を越され、食べ尽くされてしまった住人の口惜しさが、良く出ている。

コンドルは新緑を背に孤独なり 眞壽

猛禽類は単独行動の習性があるが、新緑を背にしたコンドルの孤独に思いを馳せたのであろう。コンドルの孤独を前面に出した方が良い。例えば、「新緑のなかコンドルの孤独かな」とすることができる。

子猿剥くバナナの皮の十文字 明美

確かに間を空けてバナナの皮を四箇所剥けば、十文字のかたち。写生の良く効いた句である。実景は子猿なのであろうが、「猿剥けるバナナの皮の十文字」とすることもできる。

十葉の月の輪ぐまの首かざり 直子

十葉を首飾りと見立てる句は散見されるが、「月の輪熊」の首飾りであるしたのは手柄である。まさに、動物園吟行に参加した証しの句である。

虎昼寝風格ありや強き柄 幸

添削…昼寝せし虎の風格柄の濃し

夏の日に昔なつかし動物園 眞壽

添削…夏の日や園のトイレの新と旧

炎昼や眼寄り来る檻の猿 弘子

檻を境界とした主客転倒の句である。猿から見れば、何故こんな暑い日に動物園に来るのだろうか。

野毛山より一望の街薄暑光 友子

添削…野毛山の眼下一望街薄暑

大方は知らぬ草の名若葉道 弘子

添削…大方の知らぬ草の名青葉潮

寄る子らの残る市電や風薫る ツル子

添削…風薫る遺る市電へ子らの声

夏木立綱に巻きつく子猿の尾 明美

この句もよく写生された句であるが、子猿は檻の内側におり、そこには夏木立はない。猿の檻が夏木立に囲まれている句と理解することも出来るが、前記位置関係を考えると、夏木立の季語が効いていない。檻の内外を流通するもの、例えば「青嵐」や檻の内外を一様に支配する気象関係の季語、例えば「夏めく」に取り替えた方がいい。例えば「青嵐綱へ巻きつく子猿の尾」となる。「綱に」は「綱へ」にする。

夏来たり子等は木陰でキリンかく

眞壽

原則として、動詞は一句に一つが好ましい。例えば、「夏来たり子等は木陰にキリンの絵」とすることができる。

白孔雀の園内自在風薫る 友子

放し飼われている白孔雀は園内を自由自在に移動する。吹き渡る風もまた自在である。ここまで解き放たれたような一句である。

飼育員離れぬ子猿夏きざす 明美

「飼育員離れぬ子猿」の文意は二つある。「子猿が飼育員のそばを離れない」と「飼育員が子猿のそばを離れない」の二つである。動物は初めて見る養育者を親と認識するそうである。飼育員

が難産の親猿に代わって哺乳瓶で養育した場合であれば前者のケースであろう。また、養育放棄の親猿に代わって飼育員が子猿を養育した場合も前者のケースであろう。親猿も子猿の面倒をよく見ているが、難産の経緯を知っている飼育員が、その後遺症が出ていないか、気懸りなところをチェックするために、子猿のもとを頻繁に訪ねている場合は、後者のケースである。どちらのケースか知る由も無いが、仮に後者のケースであると、「飼育員の離れぬ子猿夏さざす」となる。上五は六音となるが、初句の六音は認められる。十七音に拘泥するよりも、意味の曖昧性を消した方が良い。

ベイブリツチ空に溶け込む朝ぐもり

弘子

写生句なのであろうが、「空に溶け込む」では季語の説明となる。視覚だけの句である。この句の添削は容易ではないが、例えば、「ベイブリツジの車列の音や朝ぐもり」とすれば、視覚と聴覚の句になる。橋が雲に消されていることも分かる。

青蔭やダチヨウの遠視5Kなり 幸

添削…遠視力五キロの駝鳥蔭畑

夏木立オランウータンの堂々と

ツル子

添削…オランウータン四肢堂々と青

嵐

気高いぞアカンサスの花紫紅色 直子

添削…アカンサス膝にはギリシヤ悲劇集

夏めくや子を甘噛みす虎の牙 明美

これも写生の効いた句である。「甘噛み」の言葉が直ぐ出た作者の語彙力には敬服する。「夏めくや子を甘噛みの虎の牙」としたい。「甘噛みす」では三段切れとなるので。

素早くもはえをパクツと王ライオン

添削…ライオンの口の闇へと蠅早し

さる山の右往左往や青あらし ツル子

添削…猿山の右往左往や青嵐

あじさいはヘンリー像に感謝す 直子

添削…紫陽花やヘンリー卿の水の道

家族づれ氷菓手に手の動物園 弘子

添削…動物園子らそれぞれの氷菓かな

ありし日のつがるさんの眼月見草 幸

添削…在りしひの「つがる」のまなこ月見草

猛禽の檻の高さや日盛りぬ ツル子

添削…猛禽の檻の高さや日の盛

新緑に鳥の鳴き声けたたまし 眞壽

添削…新緑やけたたましきは鳥の声

観覧車廻ることなく街薄暑 弘子

添削…街薄暑動きやめたる観覧車

枯葉つば麒麟のランチ風薫る 直子

添削…寄り来たる麒麟の昼餉風薫る

夏木立親子の運転市電内 幸

添削…夏木立親子操る廃市電

フラミンゴ背中の蝶や静かなり 幸

添削…フラミンゴしづかなる背の黒揚

羽

くす若葉空に向って伸ばす枝 眞壽

添削…樟若葉枝は無辺の空目指す

聖五月ラクダのツガル長寿なり 直子

添削…ツガルてふ駱駝の長寿聖五月

刈り込みし麒麟の形つげ若葉 友子

添削…刈り込みは麒麟のかたち黄楊

若葉

(欠席投句 古野

明美)